

## (1) 総合計画の基本的な考え方について【資料1】 説明要旨

### 1. 次期総合計画の構成案について

#### ○策定の経緯

- ・2025年2月のまちづくり懇談会では、計画の中核である「目指す都市像」のみを提示しました。
- ・その後、審議会等での議論を経て、理念や目標といった具体的な部分が固まってきたため、その全体像を説明するものです。

#### ○基本理念：「地域力で進める幸福なまちづくり」

- ・現行の総合計画が掲げる「地域力」という理念を踏襲します。
- ・それに加え、国が推進し、近年重視されている「ウェルビーイング」（身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること、いわゆる幸福度）という新しい視点に着目し、これらを組み合わせたものを新たな基本理念としています。

#### ○ありたい姿（士別らしさ）と人口ビジョン

- ・「士別らしさ」として、次の時代へ継承すべき地域の魅力や特長を以下の6つの要素に集約しました。  
①天塩川 ②農業 ③健康スポーツ ④羊 ⑤合宿の受け入れ ⑥自動車等試験研究
- ・なお、「人口ビジョン」については、2月の懇談会で示した内容から変更はありません。

#### ○基本目標：「目指すまちの将来像」として5つの目標を設定

- ・基本目標は、過去に実施した市民アンケートの結果や、市役所内部での事業評価（施策アセスメント）などから、次期計画で取り組むべき課題や、現計画から継続すべき事業などを整理・分類した上で設定しています。
- ・具体例として、「健やかに安心して暮らせるまちづくり」という基本目標が挙げられています。これは、市民アンケートなどで寄せられた「市立病院の診療体制の充実」「地域診療・在宅医療の確保」「感染症予防対策」といった求められる取り組みに対して、「医療・福祉・健康づくり」などに分類される基本施策をもって解決にあたるといった構成になっています。

### 2. 「地区別計画」の今後の取り扱いについて

- ・現在の総合計画に含まれる「地区別計画」について、過去8年間の成果と課題を検証するため、2025年5月に各地区の自治会長を通じて調査・検証を依頼しました。
- ・6月までに集約された各地区からの検証結果を分析したところ、「残された課題」として挙げられた項目の多くが、特定の地区だけでなく市全体に共通する課題であることが判明しました。

- ・具体的には、「人口減少」「担い手不足」「独居高齢者の増加」「空き家の増加」といった課題が残されており、これらは非常に深刻で、各地区の努力だけで解決するには限界がある（一つ一つの課題が重い）と結論づけています。
- ・上記の分析結果を踏まえ、次期総合計画では、これらの共通課題を「地区別計画」として各地域に委ねるのではなく、市が主体となって取り組むべき「市全体の政策」として位置づけ、取り組んでいく方針です。

### 3. 各地域の魅力と市民への意見協力の依頼

- ・方針転換の一方で、各地域が持つ固有の魅力や、これまで「地域力」によって培われてきた実績は、引き続き大切な財産として認識しています。
- ・資料の5～6ページには、市内4地区それぞれの特色や地域特有の取り組みが掲載されています。
- ・この総合計画は、来年度（2026年度）から8年間にわたる、士別市のまちづくりの方向性を定める非常に重要な計画です。
- ・現在お示ししたものはあくまで案であるので、記載されている以外にも「うちの地区にはこんな魅力がある」や「地域独自でこんな取り組みを行っている」など、様々なご意見をいただきたいと思えます。